

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学研究科
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. アドバイザリー・パネル制度を改編する。	→2005年度末に制定されたアドバイザリー・パネルに関する内規の改善内容（委員の人数、任期、資格、役割の明確化などの再検討内容）を行うための会議開催回数。	C
2. 学部の使命・目的に照らして商学部の教育研究組織が妥当であるか否かに関して、継続的に検証する。	→妥当性の常時継続的検証のための会合開催回数。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

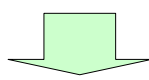
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目4.0.1	(現状説明) アドバイザリー・パネルの改編に関しては、学部主導で検討を始めたところであり、昨年度と比較して、大きな変化はない。
☆ 小項目4.0.2	(現状説明) 学部の人事委員会と学部・大学院執行部が定期的に検討を行っている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目4.0.1	
☆ 小項目4.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目4.0.1	
☆ 小項目4.0.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目4.0.1	
☆ 小項目4.0.2	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目4.0.1	
☆ 小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
☆ その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○アドバイザー・パネル改編の検討を前進させることが望まれます。

【学内委員】

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、全小項目についてももう少し詳しく現状説明されることを希望します。

○アドバイザー・パネルについての説明を加えるなど、わかり易い現状説明をお願いします。また「昨年度と比較して大きな変化はない」では分かりません。

○小項目4.0.1の現状説明は、目標の説明に留まっています。

○小項目4.0.2の現状説明ではどのように検証されているかわかりません。例えば回数を記載するなど工夫をお願いします。

○小項目4.0.1の現状説明は、小項目の内容に対応していません。

○大学では伸長させるための方策への記述がありますが、大学院ではありません。ほぼ同じ記述内容かと思いますが。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ アドバイザー・パネルは本学卒業の学外委員からなる組織であり、商学部・商学研究科の研究・教育に関して、多方面からの問題提起・助言、あるいは提案を頂戴するために設立されたものである。商学研究科の教育研究組織は、商学研究科の理念・目標を前提として、かつ社会からの要請をも鑑みて、学問原理や研究方法、対象、分野の近接性にもとづいて組織化されている。専門分野に関して言えば、経営、会計、マーケティング、ファイナンス、ビジネス情報、国際ビジネスの6分野からなる。教育研究組織の適切性に関しては、新任人事を行う際に、商学部の人事委員会ならびに学部執行部・大学院執行部が常に検討を行っているが、毎年定期的な検証という形で行ってはいない。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

<個別的な指標>
